



## 謹 告

永らく御支援を戴いておりました本誌は、新春新年号より編集機構を拡充致しまして、県酪連、県総合畜連、県経済農協連、県農業共済連、県養鶏加工連、県養鶏農協組合、県獣医師会、県家畜商協等が参加して県畜産会により発行、官民一体となった畜産広報誌に踏み切ることになりました。

農業が曲り角を大きくまわっている時、畜産に関する技術経営の普及も、より一層周知を集めて、岡山県畜産の振興に寄与すべきだと考え、関係各方面の協力を得て、機構の拡充を行った訳でございます。新機構のもとでも、本誌名はこのまま存続し、過去14年間の歴史を継承して参ることに致しておりますので引続き御愛読、御支援下さいますようお願い申し上げます。

本誌の機構拡充に際して、関係団体の絶大なる御協力を給りましたことを厚くお礼申し上げると共に、昭和24年以来永らく御購読、御支援をいただきました会員諸兄をはじめ関係各位に、本誌の発展を意図致しました旨を御了承戴きたく謹んでおしらせ申し上げます。

尚、新機構発足を機に、誌代を一部50円に致しますが、諸経費値上りの折、本誌運営の円滑化を計る上に御理解給われますよう重ねてお願い申し上げます。

追って、本誌の機構拡充に伴ない、県総合畜連が発行しておりました「おかやま総合畜産」は本誌と統合しましたので、この誌の読者の方は引続いて本誌を御購読願いますから、御了承の上今後共よろしくお願い致します。

## 編集室より

◇今年も終わろうとしている。本号の冒頭にも出口県畜産課長が書いているように事件の多い年だった。社会全体が落書きをみせて来た反面、平和の中にも人々欲望の闘争と競争がからみあって、何かに曳きずられていくような恐ろしさを感じさせた一年であった。

◇12月14日は四十七士の討入りの日である。元禄の昔、平和が続いた当時にとってこの事件は青天のへきれきの出来事だった。しかし今にして思えば表面平和にみえた世の中も、いや応なしに押しつけられたような為政者の独善(?)に対する社会の不満が、一方では長いものに巻かれろ主義に沈滞し、一方では本来の人間性への目覚めに対処していった姿とみられるのである。

◇吉展ちゃん事件とその連鎖反応がかもし出した一連のニュース、国鉄の列車事故、九州の炭鉱にみられるような科学の進歩に人間社会がついていけなくなった現象、ケネディー暗殺に類似した事件が日本でも池田首相や野坂共産党議長の身边にあった。簡単に人を殺す気風、人の不幸が平然と陽のあたる処で横行することは恐ろしいことである。平和な毎日が続くとき、往々にして大きな事件の芽がめばえるものである。

◇農業界の1年は、古老の人でも知らないという大雪に悩まされ、麦を初め野菜果物に大きな痛手を喰い、その処置も出来ない内に、夏場の高温期間が短い為に牛乳は売れない、肉は安値続きで、不況の連続、伸びる筈の畜産は今年も伸び悩みのまま終わろうとしている。何とか活路を見出そうとあがきはするが、基本的妥解の線を打ち出し得なかった。農業の構造改善も実施段階に入って期待とは逆の方向をたどる地域の出ることが心配させられ始めている。来年度予算は大蔵省の内示に各省共がっくり来ていると報じられているのは周知の通りである。

◇しかし全く明るくない年であったとはいえないであろう。畜産は伸び悩みといっても養鶏は大いに伸びた。養豚も明るい年といえよう。この勢いをいつまで続け得るかということになると問題があるが、地域によっては今年一年で大いに基盤を整備して来年からの儲けに地固めをした処も多い。前向きの姿勢で努力し得た地域、目に見えない努力をしている人々が結局は勝利を得るのである。皆様の地域は恐らく前向きの成果を上げられていることだろうと思う。この成果は来年に持ち越して一層の精励をされることが自分の生活を安定させる近道であろう。それには各人が、各地域が、知恵と努力とそれに勇気、更に加えればねばりをもつことが大切である。今年一年を静かに振り返った時、どれだけの実践の積み重ねが出来たでしょうか。そして来年度に課せられた計画はどのようにお進めでしょうか。来年が今年より一歩でも前に向いた年でありますように念じて止みません。

◇本誌編集が次号より岡山県畜産会に引継がれて発行されることとなります。昭和24年以来永らく御支援いただきました会員諸兄をはじめ関係各位に編集室よりも深くお礼を申しあげるとともに引き継がれた後も本研究会は編集の一翼を担っていくことになっておりますのでよろしく従前以上の御愛読を給わりますようお願い致します。畜産の存続します以上、本誌が永々と続きますことを念じ、新体制のもとに受け継がれる本誌に喜びを感じる次第であります。皆さま方の一層の御発展を心より祈ります。